

昭南島物語 上巻 目次

- 四十五年目のシンガポール
二人の密偵 一五
火花散る逮捕 二七
囚人四〇四号 三六
陳青年 五
開戦前夜 五
進撃開始 八
マレー沖海戦 一〇三
電錐作戦 二八
遺骨を抱いて 一三三
ジョホール水道渡河作戦 一四九

- 蟻に成りたい 一六一
解放の日 一七五
イエスカ、ノーか? 一九七
大いなる勇氣 三〇
快男児田中館博士 三三八
ギブソン・ヒル事件 三五〇
血の華僑狩り 三六五
逆掠奪 三〇〇
昭南華僑協会の設立 三三二
五千万ドル強制献金 三三四
欺された憲兵隊 三三三

装画 依光 隆

装丁 岩黒永興

昭南島物語 下巻 目次

- パイナップル畑の殺意 七
虎狩りの殿様 一七
コーナー 徳川侯爵に会う 三三
華僑タウケイ 五
シンガポールと日本 三
大達茂雄の登壇 七五
人間大達茂雄 九二
上野動物園長古賀忠道の標本採集 一〇〇
ジョホールでの感激 一〇九
聖なる掠奪者たち 一二八
アルベッツ夫人とコーナー 一三六

- 燃え上がる憎悪 一三四
大艦隊 一四三
二冊の本 一四八
女学校料亭 一五五
アルベッツ夫人の死 一六三
徳川侯爵の総長就任 一七三
英語禁止とマレー語辞典 一八六
二人の科学者 二〇八
一粒の種子は小さくとも 二二〇
昭南港襲撃事件 二二九
銃弾と友情 二三七
桐一葉 二四六
戦場に咲いた花 二五四
一丁のピストル 二六〇

終戦 二六五

パグラー裁判 二六九

祖国の繁栄を祈って 二九九

終章 三〇〇

あとがき 三一九

装画 依光 隆

装丁 岩黒永興

あとがき

昭南島といつても、もはや若い人たちにはシンガポールだとルビを振らなければ分からないほどの昔のことになってしまった。昭和十八年の春、まだ硝煙の臭いの濃んでいたこの地に立った私自身ですら、その記憶は遠い忘却の彼方に消え去ろうとしている。私はその時、三十一歳、新聞記者としては働き盛りであった。

私は今度の太平洋戦争には海軍報道班員として二度従軍している。戦争で多くの尊敬すべき友人を得た代わりに、多くの大切な友人を失った。幸いに命を全うし、もの書きになった私は、私の代わりに死んでいった將軍や提督、戦友や知人たちのことを書き綴る義務があると思い、幾つかの戦記や戦争に散華した人々のことを書き綴ってきた。そうしていつしか私は七十八歳の馬齢を重ねてしまった。

ある日、読売新聞社出版局長の杉林昇氏から

「読んでごらん下さい。良い本ですよ。あなたは戦争に行っておられたから感動されるかも知ね」

と一冊の小冊子を渡された。それがケンブリッジ大学名誉教授E・J・H・コーナー博士の手記、そして神奈川大学文学部教授石井美樹子博士の翻訳になる『思い出の昭南博物館』（中公新書）だった。私は夢中になって読んだ。そして思った。私が昭南島を訪れた時、私の知らないところでこんな感動的な、人類愛に満ちた物語が展開されていたのだと……。

私はこの実話をノンフィクションものとして書きたくなかった。しかし、コーナー博士の著書がある以上、私が同じものを書くのは僭越である。私は悩んだ末、私なりに自分の体験も加えて、当時昭南島と呼ばれていたシンガポールそのものを主人公とした物語を書こうと思った。シンガポールと呼ばれる小さな島、しかし大きな威力を内蔵している島で、この時期の人間たちがどのような生き方をしたのかを描きたい。戦時下で累卵の危い立場にあったシンガポールの文化を守ったのは、日英の学者、文化人、そしてそれに協力した多くの善意の人々であった。この人たちの功績は何としても書き残しておかねばならぬ、そう考えた。それならばコーナー博士と抵触しないだろう。

私は石井教授に連絡を取り、石井教授の賛同でコーナー博士からの快諾を得た。執筆に当たってはシンガポールやマレー半島を歩き、当時日本軍の下に捕虜として酷使されていた方々にも会った。その方々は当時の恨みは忘れることは出来ないが、正しい事実を伝えるためには……と思いを越えて協力して下さった。こうして私はこの物語を約一年にわたって週刊読売に連載する事が出来た。連載中も多くの読者（その大分は当時兵士として従軍されていた方々であった）から激励や訂正、指導の便りを戴いた。今回単行本として出版するに当たり、それらのご意見やご指導を勘案して加筆、削除、訂正した。

しかしながら時が経ち過ぎ、文中に登場する多くの方々が既に鬼籍に入られ、その方々から直接指導を仰げなかつたことは返す返すも残念であったが、出版に当たりとくに左の方々からは絶大のご助力を戴いた。その尊名を記し感謝に代える次第である。

E・J・H・コーナー博士。石井美樹子博士。徳川義知氏（徳川義親侯爵ご令息）。篠崎護氏。羽根田弥太博士。郡場佐和子氏（郡場寛博士ご令嬢）。石川俊夫北大名誉教授（田中館秀三氏令甥）。村田正宏氏（防衛庁）。須磨洋朔氏（武蔵野音楽大学講師）。土谷一郎氏（防衛研究所戦史部長）。山澤祥佑氏（在マレーシア日本大使館付）。永江太郎氏（防衛研究所）。野中図洋和氏（陸上自衛隊）。寺本弘氏。高木康行氏（朝日新聞社）。鶴飼恵氏（安田火災シンガポール駐在）。原不二夫氏（アジア経済研究所）。鈴鹿紀氏（京都園芸倶楽部）。杉野好宏氏。ステファン・レオン博士。イスマル少佐。イドロス・フセイン氏。モハメット・マヤン大尉。アフマド・ラブー氏。

更に次の文献を参考にさせて戴いた。

参考文献

防衛庁防衛研究所戦史室編 戦史叢書「マレー進攻作戦」朝雲新聞社刊。
防衛庁防衛研究所戦史部編 戦史叢書史料集「南方の軍政」朝雲新聞社刊。
シンガポール市制会編「昭南特別市史・戦時中のシンガポール」財団法人日本シンガポール協

会刊。

財団法人防衛弘済会編 寺本弘著「キャタピラは征く・戦闘の実相とその心理」キャタピラは征く出版会刊。

アーサー・スウィンソン著、宇都宮直賢訳「シンガポール・山下兵团マレー電撃戦」サンケイ出版刊。

講談社出版研究所編「ジャーナリストの証言・昭和の戦争3・シンガポール攻略」講談社刊。

中公新書 児島 襄著「太平洋戦争」中央公論社刊。

講談社現代新書 黒羽清隆著「太平洋戦争の歴史」講談社刊。

中公新書 E・J・H・コーナー著、石井美樹子訳「思い出の昭南博物館・占領下シンガポールと徳川侯」中央公論社刊。

石井美樹子著「友情は戦火をこえて・博物館を戦争からまもった科学者たち」PHP研究所刊。

篠崎 護著「シンガポール占領秘録・戦争とその人間像」原書房刊。

シンガポール日本人会編「南十字星・シンガポール日本人社会の歩み」シンガポール日本人会刊。

高橋弘殷著「シンガポールからの報告」日本放送出版協会刊。

田中館秀三業績刊行会編「田中館秀三・業績と追憶」世界文庫刊。

那場寛先生遺稿集刊行会編「那場寛先生遺稿集」

古賀忠道先生記念事業実行委員会編「古賀忠道 その人と文」古賀忠道先生記念事業会刊。

ヌーベル・フロンティア編「シンガポール・マレーシア」JICC刊。

MAMORU SHINOZAKI 著 [SHONAN—MY STORY: THE JAPANESE OCCUPATION OF SINGAPORE] TIMES BOOKS INTERNATIONAL TIMES CENTRE 刊。

E. J. H. CORNER 著 [THE MARQUIS: A TALE OF SHONAN—TO] HEINEMANN ASIA 刊。

INFORMATION DIVISION, MINISTRY OF CULTURE, SINGAPORE 編 [SINGAPORE: AN ILLUSTRATED HISTORY 1941—1984]

TIM BOWDEN 著 [CHANGI]

RAIMOND FLOWER 著 [MEET YOU AT RAFFLES]

BRIAN MONTGOMERY 著 [SHENTON OF SINGAPORE: GOVERNOR AND PRISONER OF WAR]

FEDERAL PUBLICATIONS 編 [日本統治下の新加坡・THE OCCUPATION SINGAPORE: 1942—1945]

アンドロス・アウグスティン著、饗庭朋子訳「ラッフルズ」